

# FLORA of KOCHI

The Kochi Prefectural Makino Botanical Garden

No.29

## 探してみよう！ 秋編

### 本物は稀

### フジバカマ (キク科) *Eupatorium japonicum* Thunb.

フジバカマはキク科ヒヨドリバナ属の多年草です。野生のものは 0.7-1.3mほどになります。花は蕾のときはピンク色を帯びていますが、花時には白くなります。葉は典型的には3全裂から3深裂しますが、茎の上部やわき枝の葉はしばしば単葉となります。

ヒヨドリバナ属植物は形態の変異が多く、雑種も作るので識別が難しいのですが、フジバカマは次の点で区別します。1) 走出枝を持つ、2) 葉の裏面や総苞片に腺点と呼ばれる黄色の粒をもたない、3) 典型的な葉は三裂して葉柄があり、葉裏面脈上に長軟毛はない、4) 花序は外側の花柄が伸びて凹状になる、という特徴を総合的にみて判断します。

フジバカマは川の氾濫原などやや湿潤肥沃でオー

ブンな立地を好みます。花期はヒヨドリバナより遅く8-9月です。フジバカマには背丈が0.4-0.7m程度で、花のピンク色が濃く、茎が紫で、葉の裂片も細くて光沢のあるタイプがあり、園芸用として流通しています。(河原孝行)



フジバカマ



フジバカマ (園芸品)

表1 フジバカマの近縁種・園芸品種との相違点

	生育地	茎の高さ	葉の腺点	葉	花序
フジバカマ	川の氾濫原など湿潤肥沃で日当たりの良い場所	0.7-1.3m	なし	基本的に3全裂-3深裂するが、上部はしばしば単葉	外側の花柄が伸び、凹状
フジバカマ (園芸品種)	民家近く、河川敷などの日当たりの良い場所	0.4-0.7m	なし	3全裂-3深裂 (上部はしばしば単葉)	外側の花柄が伸び、凹状
ヒヨドリバナ ※変異が多い	山野の日当たりの良い場所、林縁、明るい林内	0.3-1.0m	あり、稀になし	単葉または3中~深裂、または欠刻状に裂ける	散房状

### カロライナツユクサ *Commelina caroliniana* Walter とシマツユクサ *Commelina diffusa* Burm.f.

2009年に土佐山田町で初めて確認された“シマツユクサ”は花色が薄く苞の先が少し伸びてツユクサとシマツユクサの雑種かと思われるような中間的な形態をしており、九州南部以南に分布するシマツユクサとするには疑問がありました。そこで標本を再検討したところ、種子の形態に大きな違いがあり、その特徴から東南アジア原産のカロライナツユクサである可能性が出てきました。WEB上でもカロライナツユクサについて報告している福岡県北九州市在住の中村功氏に標本や種子を確認して頂いたところ、本種と同定されました。

表2 ツユクサ近縁種の相違点

	種子の表面	苞
ツユクサ	凹凸状	半円形
シマツユクサ	深い網状	幅が広く先が短く伸びる
カロライナツユクサ	平滑	細長く先が伸びる

温暖化の影響のためか、シマツユクサは近年各県で国内帰化(?)の報告がされています。隣県の徳島県でも確認されていますが、本県では未だ見つかっていません。

ツユクサとシマツユクサ、カロライナツユクサは種子表面の模様で容易に区別することができます。そろそろツユクサの種子が熟してくる頃です。ルーペを持ってフィールドに出かけましょう。



写真提供: 坂本彰氏



写真提供: 中村功氏

カロライナツユクサの花 カロライナツユクサ (左) とシマツユクサ (右)

参考文献: 中村功 (2012) 「日本未記載種 *Commelina caroliniana* Walter カロライナツユクサ (新和名) の報告」, 北九州市立自然史・歴史博物館 自然史友の会誌「わたしたちの自然史」第120号:11-15.



# 高知県の植物 ニュース

## ■ 未確認植物探し

文・写真 坂本 彰

「探し物は何ですか？ 見つけにくいものですか？・・・」 そうです。見つけにくいから探しているのです。見つけやすいものだと探す必要もありません。最近見つけにくい植物が見つかった話を三題ご紹介します。

### ナツノタムラソウ シソ科 *Salvia lutescens* (Koidz.) Koidz. var. *intermedia* (Makino) Murata

1961年7月に山脇哲臣氏が赤良木峠で採集して以来確認されていなかったナツノタムラソウが三辻山で見つかりました。見つけたのは調査に参加していたメンバーでなく、メンバーの夫佐々木英男さん。見つけたのは調査を予定していた赤良木峠でなく、峠の北側の土佐町の尾根と、予想外の部分も多かったですが、半世紀ぶりの発見となりました。

分布域を確認したところ、三辻山頂上（三角点）のすぐ北から NTT 中継所のあるピークを経て北西側に延びる尾根を中心に標高 930mあたりまで。

かなり広範囲に分布していました。よく見かけるアキノタムラソウと外見上の特徴を比較すると、ナツノタムラソウは花冠が濃い紫色で長さ約 7mm、アキノタムラソウは青淡紫色で長さ約 10mm。ナツノタムラソウは雄しべが斜め上に長く突出し、アキノタムラソウは真っ直ぐに少し出るといったことに気がつきました。全体の姿もアキノタムラソウに比べると小型で、葉が根元近くにロゼット状に広がるといった印象でしたが、これは生育場所によって変化するのかもしれませんが。



アキノタムラソウの花



ナツノタムラソウの花



ナツノタムラソウ

表3 ナツノタムラソウとアキノタムラソウの比較（高知県での所見）

	花冠の色	花筒内面の輪状の毛	雄しべ
ナツノタムラソウ	濃紫色	全長 7mmの花筒の基部から 2.5mmの位置（中央近くではあるが、真ん中ではない）に、花筒の中心線に対し直角についている。	斜め上に弓なりに反って長く突き出る。
アキノタムラソウ	淡青紫色	全長 10mm～ 11mmの花筒の基部から 1mmから2mmの位置に、花筒の中心線に対しやや斜めについている。	花筒の外に、めしべに重なるように少し出る。後にひらがなの「つ」の字型に下に曲がる。

### マルバダケブキ キク科 *Ligularia dentata* (A.Gray) H.Hara

これは「棚からぼたもち」的な発見で、ナツノタムラソウの分布範囲を確認している時に見つけたものです。見つけたのは三辻山北側山腹（標高 950m）のヒノキの人工林の林道わきで、大豊町の杖立山、梶ヶ森・杖立山間の草原に次いで3か所目の生育地となります。

杖立山東のササ草原とあまりにも違う生息環境に驚きましたが、高知県レッドデータブックには「推移帯の二次林に見られ」とあるので、この高さの二次林や今回のような下草の多い人工林はマルバダケブキの生育地になっていると考えられます。



マルバダケブキ

昔は水田の雑草で、日本イネ科植物図譜（平凡社1993）には「本州，四国，九州，琉球にややふつう」との記載がありますが，高知県植物誌調査で採集された標本は数点しかなく，高知県レッドリスト(2010年改訂版)で準絶滅危惧に位置付けられています。私も，高知県植物誌調査期間中，河岸や湿地，水田の周辺など，かなりしんどい所にも探しに入りましたが，これまで見つけることができていませんでした。それが，植物観察会によく利用しており，調査に何回も行った高知市久礼野で9月に見つかりました。数年前に素掘りの池を作っており，そこに生育していましたが，水田を掘り起こしたことによって再生したのかもしれない。

外形的な特徴としては，よく見かけるキシウスズメノヒエのように，長い匍匐茎を伸ばして大きな塊になっており，特有の形をした赤紫色の穂をつけています。日本イネ科植物図譜には小穂の色に関して，「脈にそってわずかに緑色部があるほかはほとんど白色，ときに一部紅紫色に染まる」とあり，久礼野で採集したものは写真のような赤紫色でした。高知県植物誌にも「花序が紫色を帯びる」とありますので，高知県に分布しているアシカキの小穂は赤紫色を帯びるものばかりで，緑白色のものはないのかもしれない。



## ■ 環境省レッドリスト改訂

昨年度は環境省レッドリストの改訂のための調査にご協力頂きましてありがとうございました。それらの結果をうけ，第4次改訂版リストが環境省より平成24年8月28日に発表されました。

高知県に分布が確認されている種類の変更点について別添の表にまとめましたので今後の調査の参考にして下さい。

高知県ではすでに絶滅危惧種でしたが，今回新たに環境省絶滅危惧種に指定された種類が11種類あります。また，高知県では絶滅危惧種に指定されていない種類では10種類が新たに指定されました。テンリュウヌリトラノオ (VU)，ミヤマガンピ (VU)，ミヤマノダケ

(CR)，ナンゴククガイソウ (VU)，ニセツクシアザミ (EN)，ミヤマコウモリソウ (EN) などです。除外されたのはトサノチャルメルソウのみです。

環境省が発表するレッドリストは，5年ごとに見直すことになっています。結果については，日本全体での評価であり必ずしも高知県の状態が反映されるとは限りません。また，抽出方式で調査が行われているため，県内全ての生育地の情報が結果として報告されてるわけではありません。

今回のレッドリストの改訂では，分類群，学名，和名が変更になったものが多数あります。植物誌もレッドデータブックも完璧なものが出ることはありません。皆様から送られる1枚の標本や情報の集積があって，少しずつ明らかになっています。高知県でも今後新種が出る可能性もありますが，細かく分けられた分類群が統合されて1種になることもあると思います。

表4 環境省レッドリスト第4次改訂結果

カテゴリー	環境省 RL(2007)		環境省 RL(2012)		高知県で確認されている種類	
絶滅 (EX)	33		32		-	
野生絶滅 (EW)	8		10		-	
絶滅危惧	I A 類 (CR)	523	1,690	519	1,779	22
	I B 類 (EN)	491		519		69
	II 類 (VU)	676		741		177
準絶滅危惧種 (NT)	255		297		89	
情報不足 (DD)	32		37		3	
合計	2,018		2,155		-	
前回リストからの除外種数	58		10		1 (トサノチャルメルソウ)	

## ■ 平成 24 年度 植物分類学セミナーの シダ講師決定と日程変更

シダ植物の講師が決まりました。本年度残りのセミナーは下記のとおりです。一部日程変更（下線部）になりましたので、ご注意下さい。お申込は下記連絡先まで。

場所：本館アトリエ実習室

時間：10：00～12:00

日程	対象種	講師
<u>11月4日(日)</u>	キク科	藤川和美・鴻上泰氏*1
<u>12月2日(日)</u>	シダ	松本定氏*2

\*1：土佐植物研究会、\*2：筑波実験植物園名誉研究員

## ■ 平成 25 年度 植物分類学セミナー & 標本作製教室

平成 25 年度のセミナーと標本作製教室を下記のとおり計画しております。皆様ふるってご参加下さい。

標本の作製は、標本庫担当の田辺（旧姓：倉橋）が植物誌の際に培った技術を皆様にわかりやすくお教えします。

### 【分類学セミナー】

場所：本館アトリエ実習室

時間：10：00～12:00

日程	対象種	講師
4月	スミレ属	細川公子氏*1
6月	ギボウシ属	安倍浩氏*2
9月	カヤツリグサ科	小山鐵夫
10月	イネ科	茨木靖氏*3
12月	シダ植物	松本定氏*4

\*1：土佐植物研究会、\*2：日本ぎぼうし協会、\*3：徳島県立博物館、

\*4：筑波実験植物園名誉研究員

### 【標本作製教室】

場所：植物園内および本館アトリエ実習室

時間：10:00～12:00

時期：5月（基礎編）、9月（水草編）

申し込みは・・・

下記の連絡先までお願い致します。お名前、電話番号、FAX、メールアドレス（携帯も可）などをお書きそえ下さい。

## ■ 植物に関する問い合わせ

毎週火曜日（休日の場合はその翌日）に植物研究課の藤川、前田、田辺（旧姓倉橋）が高知県の植物のお問い合わせに対応しています。

四国内で採集された標本につきましては、FOS（Flora of Shikoku）の通し番号をつけて管理しています。エリア新産の植物や見たことがないといった植物がありましたら、押し葉状態にしたものをお送り下さい。なお、日本各地の標本も受け付けていますので、よろしくお願い致します。

## ■ 編集後記

本号は、高知県植物誌調査では見つかっていなかった種類と新産地が確認された種類について紹介しました。

9月30日のイネ科分類学セミナーは、徳島県から茨木先生に来ていただいていたのですが、台風のため中止になりました。大変残念でした。茨木先生には標本庫で標本の同定をしていただきました。

現在のところ調査の働きかけなどが弱くなっていますが、今年度も皆様から寄せられた情報を元に希少種調査やシカ食害状況調査、新産地調査をおこなっています。今後も継続して県内の植物の調査をおこなっていきたいと思います。皆様のご協力により県内の植物の研究は少しずつ進んでいます。なお今後一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本号におきましては、坂本彰氏と独立行政法人森林総合研究所四国支所の河原孝行氏にご執筆いただきました。また、坂本彰氏と中村功氏には写真をご提供いただき、中村功氏にはカロライナツユクサの項目についてアドバイスをいただきました。皆様にお礼申し上げます。

※ FLORA OF KOCHI では皆様からの原稿を募集しております。トピックス、高知県新産・新産地の発見等がございましたら、ぜひご執筆をお願い致します。

No.29 の発行担当：前田綾子・田辺由紀・藤川和美

## 情報求ム！

シカの食害を受けている希少植物種の情報がありましたら下記連絡までお願い致します。

希少植物の生育環境や分布についても調査を進めています。調査にご協力頂ける方、情報をお持ちの方、ご連絡お待ちしております。